

モロヘイヤ

本葉5枚程度で定植を

——永田 茂穂



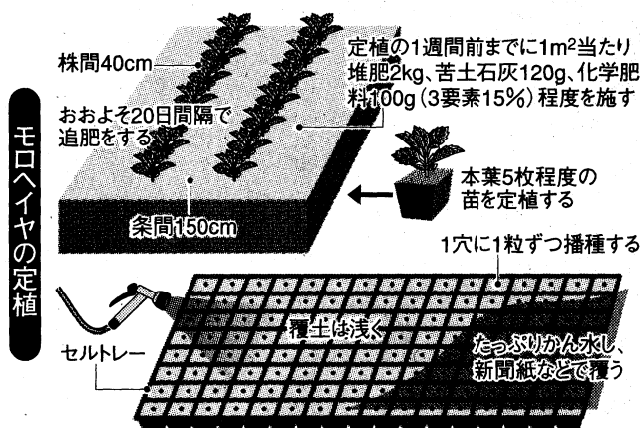
シナノキ科ツナソ属の土年生草本です。ジュートと同属で、茎から繊維がとれます。原産地は中近東で、昔からエジプトを中心に栽培されています。日本での栽培は1980年ごろから急速に増えています。

ビタミン類、ポリフェノール類、ミネラル、食物繊維などの機能性成分が含まれており、特に、カロテンやカルシウムが豊富です。

主に若葉を食べますが、刻むとオクラと同じように、ぬめりが出てきます。あえ物、汁物、炒め物などに利用されています。

発芽適温は30～40度、生育適温は25～30度で、高温を好み、15度以下では生育が緩慢になります。ここでは普通栽培を紹介します。

播種期は、4月下旬～5月です。128穴のセルトレイなどを準備します。市販の育苗培土を詰めた後、1穴に1粒ずつまきます。覆土は浅くし、たっぷりかん水します。新聞紙などで覆い、



30度程度の温度で管理すると発芽がそろいます。発芽後は20～30度が目安です。育苗期間30日、本葉5枚程度で定植します。

肥えた排水の良いほ場を準備します。定植の1週間前までに、1平方メートル当たり堆肥2kg、苦土石灰120g、化学肥料100g（三要素15%）程度を施し、耕うんします。条間150cm、株間40cm程度で定植し、十分かん水して活着を

促します。その後、土壌が乾いたら随時かん水します。

また、おおよそ20日間隔で追肥をします。1平方メートル当たり化学肥料20g程度を施し、除草をかねて、軽く耕うん、培土します。

7月から収穫になります。草丈が50cm程度になったら、主枝を20cm程度摘み取って収穫します。摘心後の高さは30cm程度とします。その後、わき芽が15cm程度に伸びたら、適宜、摘み取ります。わき芽の伸びを良くするために枝元近くを1～2枚残して収穫します。

草丈が120～150cm程度になったら、高さ50cm程度に切り戻します。

8月下旬以降、開花が始まると、葉も堅くなり、収穫も終わりになります。なお、種子は毒性があり、食べないよう注意が必要です。

（鹿児島県農業開発総合センター園芸作物部長）

平成22年（2010年）5月20日（木）／南日本新聞